

# 大和高田クラブ7年ぶりV

スポンサー後援第43回全日本クラブ野球選手権  
最終日 (13日) ネットライフドーム

大和高田クラブ(東近畿)が決勝で9-7で和歌山箕島球友会(西近畿)を破り、7年ぶり4度目の優勝を果たした。タイブレークの延長10回、竹島貴太外野手(24)が決勝3ランを放った。元近鉄監督の佐々木恭介監督(68)が16年に就任して以来、初の全国制覇。11月の社会人野球日本選手権(京セラドーム)の出場権を獲得した。

▽決勝  
大和高田ク 1020010003 79  
和歌山箕島球友会 0300010000 17

和歌山箕島球友会 (タイブレーク10回)  
(大) 米倉 本野、金村、松林、大谷、墨庄  
(和) 和田 北田、本由、内竹島(大)  
※大和高田クは7年ぶり4度目の優勝

## 佐々木監督万感「ヨッシャー!!」

「ヨッシャー!!」の掛け声に合わせて、佐々木監督は3度、宙を舞った。近鉄監督時代の96年ドラフトで福岡孝介(現阪神)のクジを引き当選して叫んで以来の代名詞だ。昨年決勝でタイブレークで敗



◇全日本クラブ野球選手権表彰選手◇

最高殊勲選手賞	竹島 貴太 (大和高田クラブ)
敢闘賞	和田 拓也 (和歌山箕島球友会)
首位打者賞 打率.467	岩永 幸大 (大和高田クラブ)

▽準決勝  
ウイン北広島 0000 0000  
和歌山箕島球友会 0001 0000  
(和) 吉田 長谷田 0000 00X0  
(和) 寺岡 水田 0000 00X0  
全定利クラブ 10

起すつもりだ。  
ミスで連覇逃す  
△和歌山箕島球友会V一時4点をリードしたが、ミスが目立ち連覇を逃した。2回に水田の逆転打などで一挙5点。しかし相手の救援陣に勢いを止められると、バント失敗や4つの失策などで流れを失った。昨年から10人を入れ替え、西川忠宏監督は「若いチームでエラーが多くなった。一から経験を重ねていきたい」と話した。

れた相手へのリベンジ。「この時のために、一年間ようやく」と選手たちを称えた。10回一死二塁。打席には、この大会無安打の竹島。「高めを叩け」と監督から言われた。大根切りくらいだったろうと、外角のボール球を叩いた。打球はふわりと上がって左翼ポール際へ。一瞬の静寂の後、三塁塁審が右手を大きく回した。クラブを率いて3季目。伝え続けたのが、逆方向へ飛ばす意識や、バットを内側から出す意識。そして、つなく意識だ。社会人日本選手権では近鉄時代の本拠地・京セラドーム大阪で再び戦える。「夢でした。ようやく庭に戻る」としみじみ語った。「クラブチーム版いてまえ打線」を引っ提げ、企業チーム相手に古巣で旋風を